

安来市ゆれやすさマップ

推定断層 宍道断層

【ゆれやすさマップについて】

1) 説明文

- ゆれやすさマップとは、「地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から地域のゆれやすさを震度として評価し、住民自らがその居住地を認識可能な縮尺で詳細に表現したものです。(地震防災マップ作成技術資料(内閣府 平成17年3月9日))
- ゆれやすさマップは宍道断層、宍道湖南方の断層、H12鳥取西部地震断層を震源と想定する地震が発生した場合、全国どこでも起こりうる直下の地震(M6.9)の揺れの強さをシミュレーションにより予測し、各50メッシュ内での最大震度を表現したものです。
- このマップに示す震度は、仮定した震源や地震規模に基づくものであるため、地震の発生の仕方(位置や規模)によって、震度はこれより強くなったり弱くなったりすることがあります。

2) 予測の基本事項

- 作成主体 安来市
- 作成時期 平成29年3月
- 予測の方法 地震防災マップ作成技術資料(内閣府 平成17年3月)による(経験的手法)
経験的手法とは、「震源からの距離に応じて地震の揺れの強さを推定する手法」と「表層地盤の柔らかさに応じて地震動がどの程度増幅するかを推定する手法」のこと。

4) 予測の前提とした想定地震の断層パラメータ

想定断層 宍道断層	設定値	想定断層 宍道湖南方の断層	設定値
気象庁マグニチュード	7.1	気象庁マグニチュード	7.3
基準位置(緯度(度))	35.5148	基準位置(緯度(度))	35.3335
基準位置(経度(度))	132.9529	基準位置(経度(度))	133.0067
上端深さ(km)	2.0	上端深さ(km)	2.0
走行(度)	83	走行(度)	150
傾斜(度)	90	傾斜(度)	90
モーメントマグニチュード	6.777	モーメントマグニチュード	6.953

想定断層 H12鳥取西部地震

想定断層 H12鳥取西部地震	設定値
気象庁マグニチュード	7.3
基準位置(緯度(度))	35.3
基準位置(経度(度))	133.4
上端深さ(km)	0.8
走行(度)	145
傾斜(度)	90
モーメントマグニチュード	6.953

- 微地形区分は、国土地理院発行の1/5万地形分類図「横田・根雨」(1979/3)、「松江」(1974/3)、「米子」(1966/3)を用いている。
- 地盤標高は、数値地図50mメッシュ(標高)(日本地図センター発行)を用いている。
- 計算メッシュの大きさは、全域を50mメッシュ(標準地域メッシュ第3次地域区画を20×20分割したメッシュ)としている。

推定断層 鳥取県西部地震断層

推定断層 宍道湖南方の断層

凡例	計測震度	震度階級	状況
■	~4.5	5弱	棚にある食器類書棚の本が落ちる事がある。
■	4.5~5.0	5強	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。
■	5.0~5.5	6弱	耐震性の低い木造住宅では、倒壊するものがある。
■	5.5~6.0	6強	耐震性の低い鉄筋コンクリート構造物では、倒壊するものがある。

※計測震度は・・・観測点における揺れの強さを数値化したもの。
※震度階級とは・・・計測震度から換算されるもの。地震情報などにより発表される際に使用されます。(気象庁ホームページより)
※震度階級表示・・・ゆれやすさを住民になじみのある震度階級で表示しています。(地震防災マップ作成のすすめ(内閣府 平成17年3月より))

2000 0 1000 2000 4000 6000m